



## ふれあい祭が谷津干潟で実施されました ブースいっぱいになった子供たちの笑顔

山本 美代子 (文化交流部会副部長)

6月8日(土)9日(日)、谷津干潟自然観察センターの「谷津干潟の日フェスタ」に参加して「ふれあい祭」を実施しました。朝から雨模様のため実施を心配していましたが、雨にもあたらず大勢の方に楽しんでいただいた2日間でした。

イベントの内容は、親子ワークショップ、フラワーアレンジメント、中国切り紙、NI-Youthによる折り紙です。

親子ワークショップは、出来上がっているリースにぬり絵をして鈴を付けるのですが、それぞれの色の使い方が違い、とてもかわいいリースが完成し、子供たちはご満悦のようでした。フラワーアレンジメントは大人も参加しましたが、やはり子供の参加が多かったです。難しいかと心配しましたが、センス良く上手にまとめていました。中国切り紙は、小さい子から高校生までが参加しましたが、あじさいなどは上手にでき上がり嬉しそうに持ち帰っていきました。折り紙では、イベントが終わってテントをたたんだ後も、子供たちはNI-Youth

のメンバーとその場で楽しんでいました。

ブース内には各事業や部会の活動を紹介するパネルを掲示、机の上に、ふれあい掲示板NEWS、受入派遣報告冊子、スクウェア、協会設立30周年記念誌などを閲覧用に配置しました。また、NIAパンフレット、日本語教室部会案内、日本語ボランティア養成講座案内、ホストファミリーボランティア募集案内、スクウェアなどを配布しました。

2日間、子供たちの笑顔がブースいっぱいに広がり、私たちはたくさんの方の元気をもらいました。さらに子供の保護者に習志野市国際交流協会の情報を発信することもできました。

来場者は8日が6483人、9日は9033人と主催の谷津干潟自然観察センターから発表がありました。協会のイベント参加者は8日が66人、9日が58人、計124人でした。また2日間で25名の協会関係者の方にご協力をいただきました。

## 市民まつり「習志野きらっと2019」に参加しました ワークショップやサンバ踊りでNIAをアピール

清水 繭子 (国際交流部会)

7月14日(日)、「習志野きらっと2019」に参加しました。

今年も主にタスカルーサ市との交流事業およびNIA活動のPRを行いました。広報部会はパネルを展示、国際交流部会は首からかける「かき氷模様のうちわ」を作るクラフトワークショップの開催、NI-Youthは、活動をまとめたアルバムの展示と、模造紙に描かれた笹の葉にメッセージを書いてもらう七夕イベントを行いました。

10時から15時まで100名近い市民の方々がブースに来場。中には国際交流に興味を持って来てくださった方も多くいました。ワークショップに参加した子どもたちの笑顔も印象的でした。

朝からの雨も夕方にはほぼやみ、文化交流部会を中心に10名ほどの会員でサンバ踊りの練習がサンロード6階で行われました。お揃いの色鮮やかな花の髪飾りをつけてボンボンを持ち、NIAの真っ赤な法被をきて準備も万端です。京成津田沼駅から市役所までの大通りも今夜は交通規制され、外が暗くなると、増えた外灯と沿道のたくさんの市民がパレードを盛り上げてくれます。そしてNIAチームのパレードがスタート。皆さんリズムに合わせて楽しそうに踊っていました。



## 第57回世界の料理教室が開催されました 太巻きカットで歓声の「房総の祭り寿司」

佐藤 洋子（広報部会）

今回は日本の家庭料理で、「房総の祭り寿司」作りを6月28日、菊田公民館にて行いました。講師は日本語教室のボランティアとして活動中の田村睦子さん。

「房総の祭り寿司は、元々、房総の村の人々が地元祭りの行事にごちそうとして作った太巻き寿司。身近な食材で、特に豪華なものを使わず、そのかわり太巻きの切り口に花などの絵柄が出て華やかになるよう、創意工夫を凝らしたのです」と田村さん。

参加者は15名。（日本語学習者3名、日本人12名）メニューは「バラの花」と「の"の字巻き」です。

「バラの花」のバラの部分は、あらかじめ市販の桃色の「寿司の素」でピンクにしたすし飯。花びらの輪郭はハム、バラの葉は野沢菜。合計3回も巻き、そのたびに巻き寿司は太くなり……。太巻きカットの段になると、「うわっ、ほんとにバラだわ!」「きれい〜!」。あちこちで、驚き、喜ぶ声が上がりました。「の"の字巻き」は細巻き1本なのでバラより簡単でした。

出来上がった2種類の巻き寿司とお吸い物、白玉きなこのデザートで、待望のランチタイム。太巻き寿司は本当に太いので、全部は食わず、お土産にした人も多かったです。

「私の国でもお寿司はありますが、今日のお寿司はきれいなだけ

でなく、とってもおいしいです」。（チャン・ティ・クイン・ニーさん、ベトナム出身）「先生がやさしく教えてくださったので、よくわかりました。くるくる巻くところが少し難しかったですが、面白かったです」。（前田エリカさん、フィリピン出身）「巻き簾をお土産にいただけで嬉しいです。家でも絶対作ってみます」。（レ・ティ・ホンさん、ベトナム出身）

日本人でも作る機会はないかもしれない太巻き祭り寿司。日本語学習者たちも日本人参加者たちも、とても楽しんでいました。



## ホストファミリー説明会が開かれました 楽しさ・やりがい・成長を求めて

野中 泰子（国際交流部会）

国際交流部会では姉妹都市タスカルーサ市から2年毎に派遣される高校生のホストファミリーを毎年募集しています。その周知活動として8月24日（土）、谷津コミュニティセンターにて「ホストファミリー説明会」を開きました。

会場には、姉妹都市交流事業の説明、ホストファミリー経験者の

体験談、習志野市からの元派遣高校生の交流体験談、子供のためのクラフト教室、ネイティブによる英語絵本の読み聞かせの、5つのブースを設けました。各ブースでは、たくさんの写真を貼ったパネルを使って説明をしました。大人たちには幅広く事業について知ってもらうことができ、子供たちにはうちわを作ったり英語にふれる楽しい時間になりました。

集まった16名の皆さんの共通の気持ちは、やはり言葉と文化の壁でした。9名のホストファミリー経験者からは「スマホなどで無料の翻訳アプリを駆使して乗り越えた」「言葉や文化の違いなどで意思の疎通が難しい時も、お互い理解し合おうという気持ちがあるので大丈夫」などのアドバイスがありました。元派遣高校生による、習志野とタスカルーサの交流体験談に、ホストファミリーのイメージが湧いた方もいた様子でした。

今回ホストファミリーに登録してくださった方がいました。今後もこのような説明会を折々開催して、ホストファミリーを増やしていきたいと考えています。



## 国際交流部会とNI-Youth有志が 「ごみゼロ運動」に参加しました

坂本 智子（国際交流部会）

5月30日は日本全国ごみゼロの日です。習志野市ではごみゼロ（530）にちなんで、毎年5月最終日曜日、市内全域で一斉ごみゼロ運動を実施しています。令和元年度「市内一斉ごみゼロ運動」は5月26日（日）、市民や多くの団体が市内各所で一斉に清掃活動を行いました。国際交流部会とNI-Youthの有志は、メイン会場である津田沼一丁目公園（通称SL公園）で行われたごみゼロ運動に参加しました。

5月末にもかかわらず異様な暑さに見舞われたこの日、朝9時、メイン会場には市内から多くの団体が集まりました。市役所の係の方から、ピンクのごみ袋、トングを受け取り、数ルートに分かれて清掃活動を開始。子供から大人までが丸となって津田沼1丁目周辺の清掃活動を行いました。普段は中々、お会いする機会がない団体の皆さんとコミュニケーションを取りながらの清掃活動は、街をきれいにすることはもちろん、普段活動する地域への感謝や地域団体との繋がりの大切さを経験する有意義な時間となりました。



## 日本語教室で書道体験教室が開かれました

6月3日(月)5日(水)6日(木)、日本語教室の書道体験教室が催されました。講師は市内で書道教室をされている渡部幸子さん(月、水)と、書道2段の敦賀萌さん(木)でした。延べで、学習者26名と日本語ボランティア4名が体験、見守りとお手伝いに31名の日本語ボランティアが参加しました。

学習者たちは、桜・幸福・愛・令和など、思い思いの字を清書しました。その様子を、学習者の大庭パトリアさんが担当ボランティアの田中律子さんの協力のもと、報告してくれました。

## 初めて筆で「珈琲」の字を書きました

大庭 パトリア 智恵美 (ブラジル、水曜教室)

私は昨年5月31日に日本に来て、今年4月からNIAで日本語の勉強を始めました。私は火曜日に漢字を学んでいます。そして水曜日には日本語の勉強をしています。

6月5日に、外国人のための書道教室がありました。私は田中先生に、書道をやってみませんかと聞かれましたが、私は今まで書道をやったことがありませんでした。先生は私に、珈琲の字を書いたらどうですかと勧められました。私は珈琲が大好きですし、ブラジルでは珈琲が有名なので、その字を書くことにして、書道教室に参加することにしました。

書道の先生は私たち外国人学習者たちに一生懸命書道を教えてくれました。先生に珈琲の字のお手本を書いてもらい、それを見ながら筆を先生と一緒に持って練習しました。日本語教室の先生たちも外国人学習者の皆さんにサポートしていました。

私は書道が初めてでしたが、皆さん優しく安心しました。書道はとても楽しかったです。NIAの皆さんが外国人のためにいろいろなことをしてくれて感謝しています。



## 日本語教室の七夕とスピーチ茶話会が開かれました 「一歩を踏み出そう！」素晴らしいスピーチの数々

渡部 一之 (日本語教室部会会長)

♪ ささの葉さらさら、のきばにゆれて、お星さまキラキラ、きんぎん砂子♪

「たなばたさま」の歌を参加者全員で歌って、今年も日本語教室恒

例の「七夕とスピーチ茶話会」が、7月1日(月)、3日(水)、4日(木)、6日(土)、それぞれの教室で催されました。会場では笹竹と飾りつけが七夕の雰囲気を作っています。

多くの国出身の日本語学習者が自由なテーマでスピーチを行いました。私が印象に残ったスピーチを紹介しましょう。

「日本語が上手に話せないと心配していませんか？ 恥ずかしくて同じ国の人とばかり話をしていませんか？ 実は前に私がそうでした。でもある時、これでは何時までも日本語を覚えられないと思い、勇気を出して日本人に話し掛けてみました。上手な日本語でなくても、一歩踏み出すことがなければ途は拓けません！」

ここに紹介したスピーチ以外にも素晴らしいスピーチが沢山ありました。スピーチの最後に、それぞれ短冊に書いた七夕さまへの「願い事」を発表しました。

今年の参加者は学習者がお子さんを含め78名、ボランティアが94名、総勢172名でした。



## 日本語教室の親睦会が開かれました 目を輝かせて踊る子供たちが印象的でした

岡田 正之 (日本語教室部会)

8月24日(土)、日本語教室の親睦会がサンロード津田沼6階の大会議室で開かれました。日本語学習者とその家族・友人、そしてボランティア、あわせて103人が参加しました。それぞれ浴衣に着替え、しばらく歓談の後、京成津田沼駅前ロータリーで行われた恒例の津田沼盆踊りに参加しました。外国人学習者たちも市民の人たちに混じって踊りの輪の中に入り、上手に踊っていました。

私はこれまででは連合町会の立場で盆踊りに参加していましたが、今回交流協会サイドから参加してみて、特に微笑ましく嬉しく感じたことありました。それは学習者と家族が、広場のやぐらの周りに集まる前に大会議室で踊りの練習をしたのですが、そこで彼ら彼女らが楽しみながら一生懸命やっている様子を目の当たりに見ることができたことです。特に目立ったのは、目を輝かせていて嬉しさひとしおの子供たちの姿でした。この催しがよい形で行われているのだなとしみじみと感じることができた一瞬でもありま

した。今後もより多くの外国の方に参加していただき、彼ら彼女らに楽しい機会を与えられればと考えています。お世話いただいたボランティアの皆様どうもありがとうございました。



## 実稲ふる里祭りに参加します

地区住民の3世代交流を目指して毎年行われる「実稲ふる里祭り」に、国際交流部会とNI-Youthが合同でブースを出展します。

2020年夏タスカルーサ姉妹都市交流派遣受入事業のPR、親子アートワークショップ、元派遣生によるアルバム紹介など、地域交流を通してホストファミリーや派遣生募集を呼びかけます！

■11月3日(日)11時～16時 実稲駅周辺

## NI-Youth有志がタスカルーサを訪問しました 新しい交流を築くプロジェクトの成功を実感した旅

原 リー 海渡、島田 早織 (いずれもNI-Youth)

8月5日から15日までNI-Youthを代表して、金井勇樹、島田早織、原リー海渡、渡邊樹の4人が、姉妹都市のタスカルーサ市を訪問しました。今回の目的は、NI-Youthの活動を通じて、タスカルーサ市と習志野市間の持続的な関係を築くため、新しい人脉作りと課題探しです。以下、いくつかの印象に残った体験を報告します。

### ■タスカルーサ市役所訪問

タスカルーサ国際姉妹都市協会のリサさんとタスカルーサ市役所を訪れ、マドックス市長やその他の議員メンバーと面会しました。議会の様子を見学することもでき、市政の運びについてその迫力とプロフェッショナル性を体験することができました。今回の訪問の目的やNI-Youthの活動について話をする機会もあり、とても有意義でした。

### ■Scavenger Hunt

Girls Learn Internationalを訪問しました。このクラブは、後進国で女性が教育を受けるための環境改善の活動をしています。ここではNI-Youthとの今後のつながりの可能性を話し合いました。アイデアとして、タスカルーサの派遣生が習志野にいる間にスカベンジャーハントを行うことを提案してみました。スカベンジャーハントを、タスカルーサ市ではGLIが主導し、習志野市ではNI-Youthが主導します。これは両市について学び、また地元の人たちとの交流ができるチャンスとなるでしょう。

注：スカベンジャーハント(Scavenger Hunt) 宝探しゲームとも借り物競争とも訳される、移動しながら与えられた課題を解決していくゲーム。

### ■Global Cafe

アラバマ大学構内にあるグローバルカフェは、海外からの



学生を歓迎する場所です。アラバマ大学の学生ハレサンディンさんは、グローバルカフェと日本の大学生がコラボレーションをしてはどうかと提案してくれました。「1ヶ月に1、2度、ここの学生と日本の大学生がお互いの文化についてスカイプを通じて話しをしてはどうでしょうか」と言います。こうした取り組みが、習志野市とタスカルーサ市の大学生レベルでの交流の第一歩にならないかと考えました。

### ■Girl Scout Tuscaloosa Troop 150

タスカルーサのガールズスカウト「Troop 150」は以前から習志野市のガールズスカウトと交流を続けています。今回、Troop150を中心に近隣のガールズスカウトメンバーが私たちをもてなしてくれ、お互いの活動について理解を深め合うことができました。

### ■Girl Scouts Leadership Summit Sanford University

アラバマ州北部のガールズスカウト代表者が集うサマースクールのようなイベントに参加しました。

私たちは冒頭で紹介を受けたため、その後何百人もの女の子に仲間のように挨拶をされ、会話では現地の学校に通っているような感覚がしました。友達もできて楽しかったし、よい経験になりました。

### ■むすび

今回、多くの貴重な出会いがあったことが嬉しかったです。また多くの団体と話をし、色々な分野における新しいコネクションを作ることができました。今後私たちNI-Youthが新しいレベルでの交流を試みることで、その絆はさらに強まるに違いないと思います。この訪問がNI-Youthをさらなる活躍へと導いてくれると実感しました。



広報  
から

### ■メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を毎月1回、配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

### ■原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

### ■スクウェア編集部員を募集しています

一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。